

[果樹部門 令和3年度 指導参考資料]

事項名	露地栽培のぶどう「シャインマスカット」の秋季に発生するべと病の防除法																						
ねらい	ぶどう「シャインマスカット」は消費者ニーズが高く、本県でも普及拡大及びブランド化の推進に取り組んでいる。本品種はべと病が発生することから、べと病防除に対応している青森県ぶどう病害虫防除暦（スチューベン基準）を参考に薬剤散布を行うこととしているが、9月以降に発病する事例があった。そこで、秋季の発病に対する防除対策について検討したところ、有効な防除法が明らかになったので参考に供する。																						
指導参考内容	<p>1 秋季に発生するべと病の防除法</p> <p>(1) 「8月中旬」に有効薬剤を散布する。</p> <p>(2) その後、長雨が見込まれ発生が懸念される場合は「8月下旬」に有効薬剤を散布する。</p> <p>(3) 10a当たりの散布量はいずれの散布時期とも2500を基準とする。</p> <p>2 べと病対策の有効薬剤</p> <table border="1" data-bbox="343 784 1444 1052"> <thead> <tr> <th rowspan="2">散布時期</th> <th rowspan="2">薬剤名・希釈倍数</th> <th rowspan="2">FRACコード*</th> <th colspan="2">農薬使用基準</th> </tr> <tr> <th>使用時期</th> <th>年間使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8月中旬</td> <td>レーバスフロアブル 3,000倍</td> <td>40</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8月下旬</td> <td>ランマンフロアブル 2,000倍</td> <td rowspan="2">21</td> <td rowspan="2">収穫14日前まで</td> <td rowspan="2">3回以内</td> </tr> <tr> <td>又はライメイフロアブル 4,000倍</td> </tr> </tbody> </table>					散布時期	薬剤名・希釈倍数	FRACコード*	農薬使用基準		使用時期	年間使用回数	8月中旬	レーバスフロアブル 3,000倍	40	収穫7日前まで	3回以内	8月下旬	ランマンフロアブル 2,000倍	21	収穫14日前まで	3回以内	又はライメイフロアブル 4,000倍
散布時期	薬剤名・希釈倍数	FRACコード*	農薬使用基準																				
			使用時期	年間使用回数																			
8月中旬	レーバスフロアブル 3,000倍	40	収穫7日前まで	3回以内																			
8月下旬	ランマンフロアブル 2,000倍	21	収穫14日前まで	3回以内																			
	又はライメイフロアブル 4,000倍																						
期待される効果	<p>1 秋季の葉での発病が抑制されることで果実品質の低下が回避できる。</p> <p>2 園地内の菌密度が低下し、翌年の発病が抑制される。</p>																						
利用上の注意事項	<p>1 本資料は令和3年1月8日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用すること。</p> <p>「農薬情報」(<a href="https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/">https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/</a>)</p> <p>「農薬登録情報提供システム」(<a href="https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm">https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm</a>)</p> <p>また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更された農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用すること。</p> <p>3 「8月上旬」までのべと病防除は、青森県ぶどう病害虫防除暦（スチューベン基準）を参考に薬剤散布を行う。</p> <p>4 レーバスフロアブルは薬剤耐性の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。</p> <p>5 ランマンフロアブルとライメイフロアブルは同じ系統の薬剤であり、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とし連続使用しない。</p>																						
問い合わせ先(電話番号)	りんご研究所 県南果樹部 (0178-62-4111)	対象地域及び経営体	県内全域の「シャインマスカット」作付経営体																				
発表文献等	平成29～令和元年度 りんご研究所試験研究成績概要集（特産果樹）																						

【根拠となった主要な試験結果】

表1 ベと病の散布体系と防除効果

(平成29年 青森りんご研県南果樹)

散布体系	8/31調査		9/10調査		10/2調査		薬害
	発病葉率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	
「8月中旬」、「8月下旬」の2回散布	0	0	0	0	0	0	なし
「8月中旬」の1回散布	0	0	0	0	0	0	なし
無散布	0	0	26.1	9.2	41.2	16.0	—

- (注) 1 供試樹:「シャインマスカット」(7、8年生)、雨よけ被覆なし、1区1主枝3反復。  
 2 薬剤散布:「8月中旬」は8月18日にレーバフロアブル3,000倍を散布、「8月下旬」は8月31日にライメイフロアブル4,000倍を散布、いずれも展着剤は使用しなかった。  
 3 調査方法:8月31日、9月10日及び10月2日に1区5新梢の全葉について発病状況を調査した。  
 (発病指数) 0:病斑なし、1:病斑面積が葉の10%以下、2:病斑面積が葉の11~30%  
 3:病斑面積が葉の31~50%、4:病斑面積が葉の51%以上又は落葉  
 発病度 = {Σ(指数×程度別発病葉数) / (4×調査葉数)} × 100  
 4 試験期間中の降雨:8月18日から10月2日までの46日間の合計降水量は134.0mm、降雨日数は20日であった。

表2 ベと病の散布体系と防除効果

(平成30年 青森りんご研県南果樹)

散布体系	8/31日調査		9/11調査		9/29調査		薬害
	発病葉率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	
「8月中旬」、「8月下旬」の2回散布	0	0	0	0	6.1	1.7	なし
「8月中旬」の1回散布	0.5	0.1	1.1	0.3	31.9	12.4	なし
無散布	10.9	2.8	36.6	11.3	89.7	51.5	—

- (注) 1 供試樹:「シャインマスカット」(8、9年生)、雨よけ被覆なし、1区1樹2反復。  
 2 薬剤散布:「8月中旬」は8月18日にレーバフロアブル3,000倍を散布、「8月下旬」は8月31日にライメイフロアブル4,000倍を散布、いずれも展着剤は使用しなかった。  
 3 調査方法:8月31日、9月11日及び9月29日に1区10新梢の全葉について発病状況を調査した。発病指数及び発病度の算出は表1のとおり。  
 4 試験期間中の降雨:8月18日から9月29日までの43日間の合計降水量は226.0mm、降雨日数は12日であった。

表3 ベと病の散布体系と防除効果

(令和元年 青森りんご研県南果樹)

散布体系	8/30調査		9/13調査		9/29調査		薬害
	発病葉率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	
「8月中旬」、「8月下旬」の2回散布	0	0	0	0	1.3	0.3	なし
「8月中旬」の1回散布	0	0	0	0	1.7	0.4	なし
無散布	0.3	0.1	15.0	4.1	29.3	12.5	—

- (注) 1 供試樹:「シャインマスカット」(9、10年生)、雨よけ被覆なし、1区1主枝3反復。  
 2 薬剤散布:「8月中旬」は8月15日にレーバフロアブル3,000倍を散布、「8月下旬」は8月30日にランマンフロアブル2,000倍を散布、いずれも展着剤は使用しなかった。  
 3 調査方法:8月30日、9月13日及び9月29日に1区5新梢の全葉について発病状況を調査した。発病指数及び発病度の算出は表1のとおり。  
 4 試験期間中の降雨:8月15日から9月29日までの46日間の合計降水量は139.0mm、降雨日数は11日であった。

(参考価格) レーバフロアブル:3,000倍 10a当たり2500(立木全面) 散布で1,040円(税込み)。  
 ランマンフロアブル:2,000倍 10a当たり2500(立木全面) 散布で1,399円(税込み)。  
 ライメイフロアブル:4,000倍 10a当たり2500(立木全面) 散布で1,016円(税込み)。